

週報

1989年10月22日 聖霊降臨節第24主日

巻 10 30号

1989年度教会主題

「神の言葉に従う」

聖句 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」……アブラムは主の言葉に従って旅立った。

創世記12章1節、4節a

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 新会堂の建築計画を完成する。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

会堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13394

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋吉隆雄

一牧師室から一

教会創立十周年記念誌を出そうと準備をしている。教会に関係してくださった牧師、信徒の方々に原稿を依頼しているが、最もお世話になった内藤協先生が亡くなられた。教会に残された説教テープの中に先生が1980年6月29日の洋光台・港南台伝道所の開所式の日にくださった記念すべき説教があった。先生の奥様に記念誌への転載をお願いしたところ快く承諾してくださった。Tさんがテープ起こしをしてくださりそれを私がまとめている。

説教を聞いて、先生が新しく誕生した私たちの教会をいかに愛しその成長を期待し、祈っておられたかが良く分かる。

先生は、パウロが建てたエペソ教会の現実から説き始めている。「偶像礼拝が盛んな町中に建っていたエペソ教会は、偶像社会のどんな猛威にも潰されてしまうような弱いものではなく、キリストの十字架の死という確かな保証のもとにあった。教会はこのキリスト

の十字架の平和と和解に根拠がある。洋光台・港南台伝道所に集められながらも、不確かな人もあろう。しかし、その不確かな人をも赦し、愛し続けるキリストがおられる。そして、このキリストの平和と和解は探さなければならない課題ではなく、既に私たちはその中に生かされている。私たちは皆違う環境と背景を持った人々の集まり、いわば異邦人教会である。しかし、キリストの和解の故に、同じ聖書を読み、一つの讃美歌を歌い、共に受け入れ合っていくことができる。私のキリストはあの人のためにも死んでくださった。それを知る信仰の実験室がこの伝道所である。教会形成に参加することによって人間が形成され、キリストにある自己形成を通して教会が確立していく。そして、その始まりが、今日の礼拝であり、ここから全てが出發する。」

教新会堂が完成した時、最初に見ていただきたい先生を失って残念でならない。先生が望まれた教会を形成していきたい。